

レジメン名

Ph陰性ALL地固め療法(G3)

出典 JALSG ALL202

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患

Ph陰性ALL(25歳以上\*)  
進行・再発  
補助療法(術前・術後)  
初発

\* 出典では65歳未満だが、田所医師より上記で登録と。

投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

WBC	3000/mm3未満	ANC	1000/mm3未満
Plt	8万/mm3未満		
その他	day36以降の化学療法は好中球が0となった時点で中止し、速やかにG-CSFを開始する。		

1クール期間

総クール数

3クール目

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ドキシルピシン	30mg/m2	輸液適量 計100mL	30分	d1、8、15
ピンクリスチン(オンコビン)※	1.3mg/m2 (上限2mg)	輸液100mL	30分	d1、8、15
デキサメタゾン	10mg/m2	経口		d1-8、15-22
シクロホスファミド(エンドキサン)	1000mg/m2	輸液500mL	3時間	d29
6-メルカプトプリン(ロイケリン)	60mg/m2	経口		d29-42
シタラピン(キロサイド)	75mg/m2	輸液100mL	1時間	d29-33、36-40
メトトレキサート(メソトレキセート)	15mg/body	髄注		d1、29
シタラピン(キロサイド)	40mg/body	髄注		d1、29
デキサメタゾン	3.3mg/body	髄注		d1、29
※地固め2コース目に麻痺性イレウスを発症した場合、ピンデシン(3.0mg/m2、max 4.0mg)に変更する。ピンデシンでも麻痺性イレウスが起こった場合は投与中止。				

1日投与順 (経時的にプレメタキソン・ホストメタキソン、 溶解液まで含む)
day1、8、15 ①グラニセトロン3mgバッグ(30min) ②ドキシルピシン30mg/m2+輸液適量(30min) ③オンコビン1.3mg/m2+輸液100mL(30min) ④生食50mL(フラッシュ用)
d1-8、15-22 ①デカドロン10mg/m2(経口)
d29 ①グラニセトロン3mgバッグ(30min) ②エンドキサン1000mg/m2+輸液500mL(3hr) ③キロサイド75mg/m2+輸液100mL(1hr) ④生食50mL(フラッシュ用)
d29-42 ①ロイケリン60mg/m2(経口) 分1眠前
d30-33、36-40 ①生食50mL(ルート確保) ②キロサイド75mg/m2+輸液100mL(1hr) ③生食50mL(フラッシュ用)
d1、29 ①メソトレキセート15mg+生食2-6mL(髄注) ②キロサイド40mg(髄注) ③デキサート3.3mg(髄注)